日本クリスチャン・アシュラム連盟
Founded by Eli Stanley Jones　春季号

日本アシュラム

SPRING 1988　United Christian Ashrams of Japan　62

開心・静聴・充満・献身・奉仕

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい地区（単位）の参加を期待している。

自我の明渡し

泉北ニュータウン教会牧師
土山牧羊

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」（マタイ一六・二四）

『生命あっての、ものだね』と言う言葉がある。一番大切なものは、自分自身、つまり自分の生命だというのである。けれどもイエスは、自分の生命を追求し、それに執着することは、それを失うことであり、逆に、生命を得る道は自分を神の中に失うこと、つまり自己を神に捧げ委ねきって、神の恵みによって生かされることであると教えられた。

信仰の向上のためには、先ず、欠点だらけの自分の姿を本当に謙虚に認めることから始めるべきである。自分自身についての問題を本当に自覚できたら、もう解決の糸口を掴んだことになる。

自分の姿を見つめて、傲慢で、愛が冷え、他人への関心が乏しく、寛容さがなく、自分だけ正しいと思って他を批判し、短気で怒りっぽく、優しさの無いのに気がついて悩む。また、日常生活の中で喜びと平安を失い、生き生きとした活力が無く、希望に満ちた力強い信仰的な行動が出来ないのを悲しむのである。

自分の不幸は自分が造っている。自分の面子、体面ばかりを気にし、尊大ぶることが、様々の問題を引き起す原因となる。それが人間関係を悪くし孤立させる。そして激しい気性によって、味方を失ってしまい、仕事が良く進まなくなる。

自分で解決できない悪の根源である自我の壁を、どうすれば克服できるのであろうか。日本的な自力による自我の滅却の伝統がある。しかし自我は、神との人格的関係を結び、自由意志を正しく用いて生きるための大切な神の賜物であるので、これを滅却することはできない。

自分で自分を良くしようとするのに先立って、キリストによって、自己を改造して頂かねばならない。心を貧しくして、自己執着とプライドに満ちた心を謙虚に押開いて、神の恵みの取扱いを待たねばならない。

神は私たちを役に立つ器として充分に用いようとしていたまう。しかし我儘な自己の態度が、それを妨げてるのである。より良く主に用いて頂くために自分自身を主の手に委ねるべきである。復活の生命によって新しく生かされるために、十字架の主と共に自己に死ぬのである。

自分をすっかり、キリストの手に明渡すことによって、主の全き支配を自分の内に確立され、主のものになるのである。静かに御言葉に聞き祈る中で、自我に固着した自己中心性は、キリスト中心性へと転換されるのである。そのとき、神の国が自分にとって現実とされてくる。

自己中心の心の汚れが取除かれて、神と隣人のために一ずに生きようとする心の清さと愛が与えられる。神と世の両者に仕る二心が無いことである。ゼレン・キルケゴールは、「心の清さとは、一つのことのみを志向すること」であると言った。それは、ジョナサン・エドワーズが強調した「キリストに向う一ずさ」である。ジョン・ウエスレイは、清さとは、「愛に反した動機が一つも無いこと」であると言った。これを、スタンレー・ジョーンズは、「神への全き明渡し」と説いたのである。

理事長　海老沢宣道
編集人　淵江淳一
発行人　大石嗣郎
定価　一部60円　〒60円

E・スタンレー・ジョーンズ生誕百年記念誌「Trans formation」所載より

「キリストに酔わされたスタンレージョーンズ」

ポール・リース

その年は一九二四年であった。

その場所はゆるやかなだらかな輪郭線を画く、牧草が茂って有名な中央ケンタキー洲の、これから発展しようとしていた小さなアスベリー大学で、その卒業式の日であった。

説教者はメソジスト教会の宣教師E・スタンレージョーンズであった。彼はアスベリーの卒業生であり、たった今インドからメソジスト教会の大会に出席するために帰国したばかりであった。満堂の聴衆の中で、私は初めての客として席についた時、私がちょうど読み終った「インド途上のキリスト」を書いたその人をこの目で見、話を聞きたい思いでいっぱいであった(すでに爆発的売行きのこの本は百万部に達しそうだった)。

能弁なヘンリー・グレモリソンの「ブラザースタンレー」。こう呼ばれることを本人は好んでいたが、その紹介に続いてなされた話しかけは、私達すべてを魅了してしまった。それはコリント人への第一の手紙三章一八―二三節の朗読ではじまった。

メッセージを講成している内容が順次流れ出ると、一種のどよめく興奮が起った。

「スタンレー兄弟」の唇から聞いた初めての講演の広い見識と他国語の換言解釈の同感を私は何と説明したらよいか。その日聞き私の心に深く刻まれた印象は、彼の長い生涯を通して語りまた書き綴った基本的な主題と推進力の驚ろくべき予表であったとわたしは敢て言うのである。このことは私には内容的に見ても方法論的に見ても、真実であった。

内容から言っても、この人はキリスト中心から一歩も逸脱していない。彼の多くの著書は、この主題そのものをかかげているのを、あなたは気ずくであろう。「印度途上のキリスト」

『イエスは主である』

(ロマ書十章九節)

あなたがたはキリストに属しているのであるから、はかり知れないほど豊かである――すべてのものはあなたがたのものである。

あなたがたは物に属していない。物があなたがたに属している。あなたがたはあなたがたの先生(パウロ、アポロ、ペテロ)に属していない。彼らがあなたに属している。もしあなたがたがあなたがたの先生に属しているなら、彼らはあなたがたをあやつるかも知れない。だが彼らがあなたがたに属しているのであるから、あなたがたは彼らから自由に学ぶことができ、彼らをあなたがたに仕えさせることができる。

あなたがたは世に属していない。そうでないとあなたがたは、その奴隷となるであろう。世があなたがたに属していて、それをあなたがたが管理するのである。

生命はあなたがたのもの、キリストにあって!、あなたがたはそれを受け、用い、楽しみ、最後にその責任を負わねばならない。

死はあなたがたに属するものである。あなたがたは宿命とか運命としてそれに属しているのではない。死は復活昇天のイエスによって征服されたものとして、あなたがたに属する。

現在はあなたがたのものである。それもあなたがたの心に、実らない思索を形成しようとするいかなる観念的な流行であっても、あなたがたに属しているのではない。未来はあなたがたに属していて、あなたがたを神の国へ招く明日への可能性と、永遠に生きる不滅の希望として、与えられているのである。

すべてこのことはあなたがたが、キリストに属しているからである!すべてこのことは、あなたがたが全き自己奉献(サレンダー)の状態の中で言えるからで、しばしばジョーンズ自身が言っている如く、「主よ、あなたはわたしをとらえてい給う」のだ。

あれから六十年過ぎた今でも、私は彼の真剣な表情、その見通す眼光、あのしっかりと装着された顎がなを見えてくるのである。低い調子であるがよく通る声、はぎれよい語句、あの忘れられないしゃれ(このしゃれは通訳者を悩ませたことを、後になって知った)はスタンレージョーンズの長年にわたる説教に、花の味わいをそえたのである。われわれの

アシュラムの五大原則
(一)　キリストへの明渡し

好評・再版出来
海老沢宣道著
『アシュラムの原則と実際』

「大乗仏教とキリスト教」
渕江淳一　著
日本アシュラム事務局扱い
定価　1,500円(〒共)
東京宗教研究所発行
大乗仏教をも大きく包摂することのできるキリストの福音を語らんとしている著者の脈々たる気魄をこの論説から感得していただきたい。(小池辰雄師の序文より)

「人間苦とキリスト」「山上のキリスト」「アメリカ途上のキリスト」「共産主義に代わりうるキリスト」「キリストにあって」「円卓のキリスト」「すべての道のキリスト」とあるように。

彼が"Song of Ascents"（高みに引上げられた詩＝都もうでの歌）と題した自伝の中の献呈の辞でも見られるように、―「私はこの世の人々に恩を受けているが、しかし私のすべては人の子イエスのおかげである。もしこの世の人々が私を富ましたとすれば、人の子は私（のすべて）をあがなって下さった。……この献辞は第一義的に人の子イエスへのものである。この人の子なしに、私は決して世の人々の子達を見出し得なかったであろう。私はイエスを通し彼らを発見した。

スタンレージョーンズの方法についていえば、もし私が一つに概括するなら、それは純粋化であった。

彼の語彙は純粋であった。彼の読書の範囲を考えるならば、例えば科学や心理学の広範囲に互っていたが、彼は専門用語を用いないようにした。彼の本は読み易く、彼の話は聞き易かった。普通の人々は彼の能弁によって沼に陥るようなことはなかった。例外が起ったのは、彼が東洋哲学、特に彼の最も通じているヒンズー教を論じていた時であった。

彼の神学は純粋であった。それは深みがないというわけでなかった。それはむしろ比較的入り組んでないといった方がよい。彼はニケヤもしくはカルケドン信条の厳密な論戦よりもむしろ使徒信条を卒直に断言する方がずっと気楽であった。それにもかかわらず、彼は「イエス教」の宗門とは遙かに異ると言うべきである。彼は聖なる三一神に完全に委ねた信仰者であった。然も彼のキリスト論は強力であった。彼に聞きなさい。「イエスは神の自己啓示であられ、神はわれわれに理解できる形で出会おうとされている。言は肉体となられた」（A Song of Ascent. p.354）。このイエスこそ主である。満ち満ちた力とその人格の重要性を見よ、彼は「兄弟スタンレー」が言うところの「絶対的絶対者」、先にロバート・スピヤーが言った「キリストの窮極性」である。

彼の全体性への感覚は単純であった。信仰としてのキリスト教は、霊的な事柄を肯定し、物質を否定するのではなかった。それは霊的な事柄の主位性を明確にし、物質的なものの贖いを確認することであった。キリスト教徒の肉体の復活を証言している。またキリスト者の道は、個人の重要性を主張する一方、社会的意義をおとしめることでもない。彼の話を度々聞いたりまた彼の書物を注意深く読んだ人々は、福音の個人対社会の問題の論争で白熱的論争を挑んだ時、彼が用いたあの鮮明な比喩を思い出すであろう。

「個人の福音対社会の福音の衝突は、私のうちに無情を残す。社会福音なしの個人福音は、肉体なしのたましいであり、個人福音なしの社会福音は、たましいなしの身体である。一方は幽霊であり、他方は屍である。両者を結合して生きた人間を得る。」

彼の目的とするところは純粋であった。観念的なものを具体的に、理想を実在物に、理論的なものを実践的に、言語を生命あるものに、夢想の未来をダイナミックな現在に転換する。――これが彼の燃焼してやまない願望であった。この目的は、彼のすべての著述と講演の中に見ることができるが、ことに二冊の著書"Is the kingdom of God Realism"（神の国は実在するか）と、"The word Became Flesh"（言は肉体となった）において明白である。

彼の聖霊への信頼は純粋であった。"Abundant Living"（豊かなる生活）の中で彼が「眼識ある信徒」といった言を引用して、「現在のキリスト教の水準は今日の問題の中で、自からを消耗させてしまっている。キリスト教が機能的にその使命を満たすには、より高い次元で更生されなければならない」と言っている。「スタンレー兄弟」はその「より高い次

世界アシュラムの標語

（ピリピ書　第二章　十一節）

（三）聖霊の啓導と充満
（四）神の国の体験と献身
（五）教会への奉仕と伝道

スタンレー博士に親しく指導を受けた著者がアシュラムの五大原則と守り方を平易に解説。

新刊好評

サトタル・アシュラム指導者
D・P・タイタス著
植村俊雄訳

「御国を来らせ給え」

神の国に就ての研究

A6判40頁定価二百円〒70円

スタンレーの後継者インドのタイタス師の名著

最新刊好評

スタンレー・ジョーンズ博士の処女作

忽ち世界各国でベストセラーになった

インド途上のキリスト

金井為一郎元訳　渕江淳一新訳

美装幀　B6判　250頁　価1900円　〒250円

若干23才で英国統治下のインドに単身赴任。60年余の生涯を献身し、現代のパウロと称された博士が、主イエスから啓示された奥義は何であったか。

元」を、ペンテコステの日に弟子達の上に起った出来事、「一同は聖霊に満たされ」(使徒行伝二・四)たと同じであることを示している。次に続くのが彼が著書のタイトルとした、Mastery（勝利）である。これは使徒行伝研究のシリーズである。彼の初期の"The Christ of Every Road"（すべての道のキリスト）という聖にて、しつこくせがむ鋭い語調で、「頼みとしていた人間の力がつき果てた時に、聖霊が私達を満たして下さる」と結んでいる。

彼の召命感は純粋であった。インドへの宣教師としての召命は、最も熟した時にはっきりと、有無を言わさぬ導きとして彼に示された。インドに彼は行った――それが一九〇七年。だが一九三八年のメソジスト教会の大会において、彼は監督に選出された。彼は二四時間足らずの選出監督であった。彼の親しき内なる声は「わたしはあなたを教会管理者になるために召したのではない。わたしはあなたを伝道者となるべく召したのである」とあらたかに語った。それだけで充分であった。選出監督は辞されて彼は解放感を味わった。「高みに引上げられた讃美の詩」は新たに彼の全身に鳴りひびいた。それ以後彼の最も愛してやまなかった彼に関する職名は、単なる「伝道者」「宣教師」であった。（渕江千代子訳）

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて開設されたキリスト教信徒の霊的運動である

〈参加者募集〉
第七回　国際
クリスチャン・アシュラム

主題　「神の然り」がイエスに於て実現された。
（第二コリント一・一七―二〇）
日時　一九八八年5月13―21日
会場　北ソウルオリンピヤホテル

クリスチャン・アシュラムは、すべての教会・教派・信条の別を超え、「イエスは主である」と、主イエスキリストに直結して一つとなる交りを結ぶゆえに、ここに人種・国籍の相違を乗り越えて国際アシュラムの結集を必然的たらしめ、平和の主イエスに共に奉仕する希望を与えられる。韓国をより近い国たらしめよ。

われわれは韓国の教会を訪問して、そこでわれわれの兄弟姉妹を通して、いかにキリストが働らかれたかを見る驚ろくべき機会を持つであろう。

五月19―20日の二日間は韓国政府の招待でソウル市内歴史的重要文化財と板門店の見学ほか観光の予定。

右一週間の食・宿泊・交通費計15万円

申込先152目黒区中央町1―20―10
〒碑文谷教会　大石嗣郎師
〇三（七一二）五七五八

九州アシュラムの恵み

福岡市西区　古川幸子

無牧の教会で皆が御言に飢えていた時、本当に心にしみ込むお説教を伺わせて頂きました。聖書は読むもの、学ぶもの、研究するものと思っておりましたが、聴くものと教えられ、またアシュラムの中で祈り、黙想のあと、聖書を開くと、聴くことができることを体験し、本当に新しい境地を得た思いが致します。

苦しい時、問題のある時には御言がどんどん飛び込んでくるように感じますが、雑事に追われる平穏な時にこそ、この方法を守るなら、御言から離れずにいられることを皆さまにお話をしております。

◆集会予告◆

▼城西アシュラム
日時・4月29日（金・祝日）
会場・北野教会（京王北野駅前）
申込先・高円寺教会

▼バルナバアシュラム
日時・5月3―5日（全休日）
会場・奥多摩福音の家

◆讃助献金感謝報告◆

四国アシュラム　一〇、〇〇〇円
関東アシュラム　五〇、〇〇〇円
深谷教会　二〇、〇〇〇円
城北アシュラム　二〇、〇〇〇円
大石嗣郎　一〇、〇〇〇円
――以上（大石生）

アシュラム生活の最良の友
アパ・ルーム
（年6回刊行の日々の糧）
国際的，超教派的，霊的な読物
価200円〒70円，年1,620円
発行所（256）小田原市国府津3-11
振替口座（東京）1-193834　アパ・ルーム
日本語版は創刊以来36年続行中

スタンレー・ジョーンズ博士の遺著
神の然り
B6判　220頁
定価1200円 送料250円
〈キリストに明け渡した人生〉
海老沢宣道 訳
日本を愛し，戦後十回の伝道を終え帰米後卒中に倒れた今世紀世界最大の宣教師が死に勝つ勝利の確信を説く万人必読の書。

東京都目黒区中央町1―21―10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム運動